

目次

intra-mart製品のエンドオブサポート

製品保守ポリシー

- 2015/12現在、OEM提供製品含めて当社製品のエンドオブサポートを明示していません。
- intra-mart製品は、保守契約を締結している場合に限り、過去のBaseModuleシリーズ、WebPlatformシリーズも継続して保守受付をします。

保守の対象となるカレントバージョンは1契約につき1バージョン指定が可能です。保守をご契約していない場合は、保守受付はできません。



注意

一部の製品（OEM製品でOEM元の保守サービス終了に伴う場合など）によっては保守対応ができない場合もあります。

周辺ミドルウェアのサポート切れに伴う保守の考え方

- 永続的にシステムをご利用頂く事は可能です。しかし周辺系のミドルウェア（Java、OS、データベース、ブラウザ）と密接に連携する為、周辺系のバージョンアップを実施した際は検証が必要です。または、周辺系のバージョンアップにあわせてintra-martのバージョンアップをご検討ください。

参考： https://dev.intra-mart.jp/product_policy/



コラム

【現行】

intra-mart Ver6.x Java : 1.6.x OS : Windows 2000 RDB : Oracle10g ブラウザ : IE8

【将来】

intra-mart Ver6.x Java : 8 OS : Windows2012R2 RDB : Oracle12 ブラウザ : IE11

Ver6.xにおける上記環境での動作は未検証です。お客様において事前検証、または、intra-martのバージョンアップのご検討ください。

リリースノートの表記について

項目

- 前提
- システム要件
 - 弊社から提供するResinは、最新バージョンを利用してください（弊社推奨）
 - 脆弱性等の修正プログラム提供に伴うミドルウェア製品のバージョンアップ
- ブラウザ別のサポート範囲
 - Internet Explorer
 - Google Chrome
 - Firefox ESR
 - Safari
 - Android版 Google Chrome
- バージョン「以上」の表記について
 - Google Chrome、iOS最新バージョンの扱い
- 弊社製品を利用する際に必要なブラウザの設定
 - 設定の状態
 - 画面解像度・文字サイズ・表示倍率

前提

- リリースノートの内容は改訂日付時点の情報です。

システム要件

- 記載されている内容は、弊社のサポートが可能です。
例外として次もサポートが可能です。

弊社から提供するResinは、最新バージョンを利用してください（弊社推奨）

- リリースノートに記載がない最新バージョンでも利用可能です。
 - ・ Resin 4.0.xx系のバージョン差異については原則、バグFixのためです。
 - ・ 弊社から提供するResinを利用してください。
最新intra-mart Accel Platformアップデート版における弊社での検証を行っております。



コラム

詳細については、下記FAQを参照してください。

http://imfaq.intra-mart.jp/imqa/faq/search_direct01Detail.asp?id=551

脆弱性等の修正プログラム提供に伴うミドルウェア製品のバージョンアップ

- 常に最新バージョンの適用を推奨します。
修正プログラムのみの提供のため、動作が変わる事はないと考えています。

ブラウザ別のサポート範囲

Internet Explorer

- 指定バージョンのみをサポート
セキュリティパッチ等の修正プログラムの適用バージョンはサポート範囲です。
例：11.x

Google Chrome

- 指定バージョン「以上」もサポート

弊社検証バージョン以降にリリースされたブラウザバージョンでは、ブラウザの仕様変更内容に影響して正常に動作しない可能性があります。

Firefox ESR

- 指定バージョンのみをサポート
セキュリティパッチ等の修正プログラムの適用バージョンはサポート範囲です。
例：38.x

コラム

intra-mart Accel Platform 2017 Winter(Rebecca) よりサポート対象ブラウザから削除されました。

Safari

- 指定バージョン「以上」をサポート
弊社検証バージョン以降にリリースされたブラウザバージョンでは、ブラウザの仕様変更内容に影響して正常に動作しない可能性があります。

Android版 Google Chrome

- Android端末によって、対象バージョンが異なります。
弊社では各製品リリースノート-「検証済み環境」に記載のAndroid端末上のGoogle Chromeでの動作を確認しています。

バージョン「以上」の表記について

- ミドルウェア製品のバージョン表記にある「以上」の考え方は次の通りです。
リリースした時点におけるサポート状況です。
リリース日以降に公開されるミドルウェアの新しいバージョンは未検証です。正常に動作しない可能性があります。
ミドルウェアの新しいバージョンに対する対応は、後にリリースされる弊社製品のアップデートで対応予定です。
例外として対象アップデートに対するパッチを提供する場合もあります。

注意

Google Chrome、iOSはバージョンアップによって正常に動作しない可能性があります。

コラム

<例>

intra-mart Accel Platform 2015 Summer(Karen) (2015/8/1) 「iOS8.3以上」の場合（括弧内の日付はリリース日）

<サポート対象のiOSバージョン>

iOS8.3 (2015/4/9) ,iOS8.4 (2015/7/1) ,iOS8.4.1 (2015/8/14)

・iOS8.4.1はパッチバージョンレベルの提供である点、また、変更内容が修正プログラムのみの提供のためサポート対象に含まれます。

・iOS8.3と8.4のようなリビジョンバージョンレベルの場合、機能変更による影響が考えられるため、リリース後においてはサポート範囲に含まれません。別途アナウンスをします。

→2015 Summerリリース時点では、iOS8.4は弊社による動作確認済みのためサポート範囲に含まれます。

<サポート対象外のiOSバージョン>

iOS9 (2015/4/9)

・intra-mart Accel Platform 2015 Summer(Karen)リリース時点では、公開されていないバージョンのため、弊社では未検証です。

Google Chrome、iOS最新バージョンの扱い

- 製品アップデートのリリース後にGoogle Chrome、iOSのバージョンが上がった場合、お客様の方で検証して頂きご利用をご判断ください。
前述の記載の通り、製品では次期アップデートリリース時で検証を行います。

— 製品保守ポリシーとアップデート・パッチの考え方

アップデートリリースまでの期間で動作不具合等が発生した場合の弊社へのお問い合わせについては、原因の切り分けをしてお問い合わせ頂きますようお願い致します。

この結果、最新のGoogle Chrome、iOSバージョンに関連する対応が必要になった場合、事象の内容に応じて改善パッチのリリースを検討します。

弊社製品を利用する際に必要なブラウザの設定

設定の状態

- クライアントPCをセットアップした初期状態、または、ブラウザアプリケーションをインストールした初期状態で利用可能です。

一部、利用できない設定・オプションがあります。上記についての詳細は、intra-mart Accel Platform [リリースノート](#) - 「[クライアント要件](#)」を参照してください。

製品によって必要な設定・制限があります。詳細は各製品のリリースノートを参照してください。



コラム

<例>

IM-ExApply for Accel Platform の場合
Microsoft Internet Explorer の32bit版のみの利用制限



注意

インターネットオプションの「ネットワーク」、「セキュリティ」はご利用の運用環境によって設定内容が異なります。弊社ではこれらの設定をしない（初期状態）での検証です。

画面解像度・文字サイズ・表示倍率

弊社で検証内容については次の通りです。

- 画面解像度

「[UIデザインガイドライン（PC版）](#)」 - 「[画面解像度](#)」を参照してください。

- 文字サイズ・表示倍率

「[UIデザインガイドライン（PC版）](#)」 - 「[ブラウザ設定](#)」を参照してください。

アップデート・パッチの考え方

- 2013 Springより既存環境に対して、アップデートとパッチの適用が可能です。

項目

- 用語定義
- リリース間隔
- リリース済アップデートへのパッチ提供基準
 - 条件
 - リリースの範囲
- Version 7.x以前とAccelシリーズのバージョンアップ・アップデートの違い

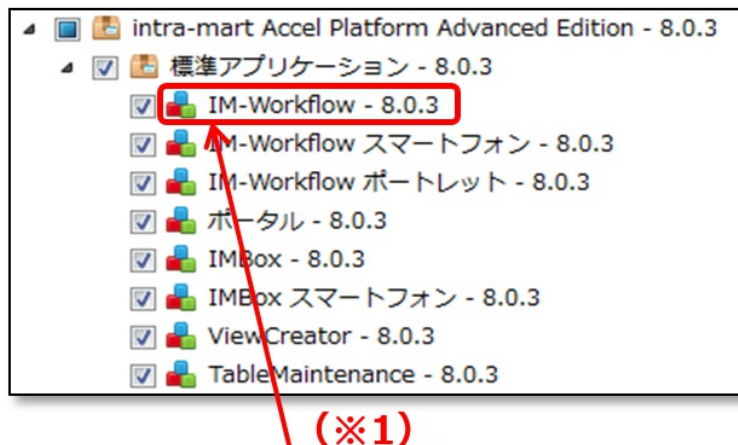
用語定義

- アップデート

2015 Spring（4月）、2015 Summer（8月）、2015 Winter（12月）の年に3回の単位でリリースする機能追加、不具合修正です。Resinの更新、検証済み環境、サポート環境の改変も含まれます。

- パッチ

アップデートとアップデートの間に緊急度が高い修正の必要などが発生した場合、モジュール単位でリリースします。Version 7.x までのパッチとほぼ同じ位置づけです。IM-Juggling内の構築されたいプロジェクト単位で取得可能です。パッチでリリースした内容は、次期アップデートに含まれます。



(※1) モジュールはこの単位



コラム

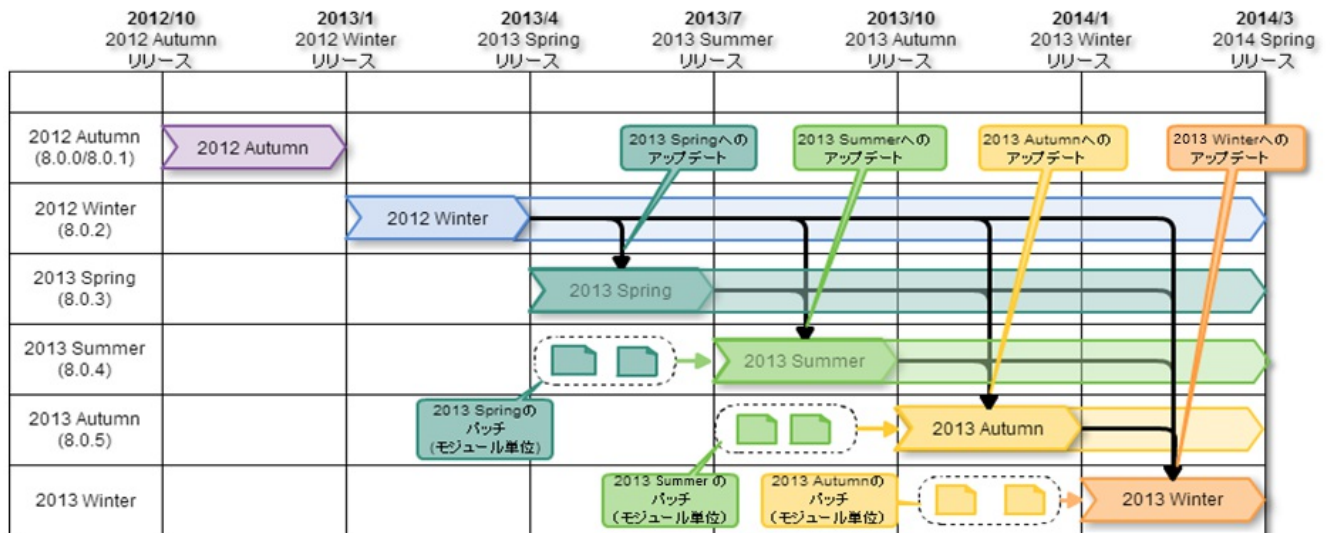
IM-Jugglingでの操作方法は下記を参照ください。

http://www.intra-mart.jp/document/library/iap/public/setup/iap_setup_guide/texts/create_war/change_to_project.html

リリース間隔

- Accelシリーズにおけるリリーススケジュールです。

— 製品保守ポリシーとアップデート・パッチの考え方



注意

一部製品（OEM製品等）については、例外的にリリース時期が変則的となる場合があります。予めご了承ください。



注意

例外的に一部分のモジュールのみを選択してアップデートする事も可能です。ただし、モジュール間の依存関係上、完全に一部分のみ適用という事ができない場合があります。このため、弊社では全てのモジュールをアップデートする事を推奨します。

パッチは、原則、最新アップデート版に対してのみにリリース致します。（例外条件については次ページにて紹介）

リリース済アップデートへのパッチ提供基準

- 次に示す条件に満たされる不具合の場合に限り、過去のアップデートに対してもパッチ提供が行われます。

条件

- Accelシリーズにおいて、リリース済のアップデート版へのパッチ提供については、モジュール間の依存関係上、過去にさかのぼって適用が出来ないため、以下の条件を満たすものとします。

- 最新のアップデート版でも解消されていない不具合
- 上記1を満たし、弊社が、一般ユーザの業務運用に著しく影響を与える不具合と認めたもの



コラム

過去対応例：

- 要件 [25281] GoogleChromeブラウザで画面のポップアップの表示に失敗し、正しく画面が表示されない場合があります。（ポータル機能）
- 要件 [25824] フォローしているユーザのCompanyBoxへの投稿内容がMyBoxに表示されない場合があります
- 要件 [26012] クロス集計の縦列の集計結果が間違っている

- 上記1を満たし、弊社が、運用上、回避できない不具合と認めたもの



コラム

過去対応例：

- 要件 [24540] ロック情報が残ったままiAPを停止してしまうと再起動できなくなります。
- 要件 [25110] Commons-FileuploadにDDos攻撃の原因となる不具合が存在します。
- 要件 [26249] IMBoxのユーザ情報において異なるユーザの情報が取得される場合があります

- 上記1を満たし、弊社が、性能に著しく影響を与える不具合と認めたもの



コラム

過去対応例：

要件 [24657] 分散環境において、メモリリークが発生します。

要件 [25211] CompanyAuthzManagerの認可判断処理の改善を行います

5. 上記2～4のいずれかで、次期アップデート版で対応が予定されているが、次期アップデート版のリリースが6ヶ月以上先の不具合

6. 脆弱性に関わる不具合

リリースの範囲

- パッチは、1年の間にリリースされたアップデートに対して提供されます。



コラム

例として、2014 Summerの場合、パッチ対象は、2014 Spring、2013 Winter、2013 Autumn、2013 Summerまで。

ただし、アップデートがあってもモジュールのバージョンが固定されている（変更がない）ものに対するパッチは、過去のアップデートバージョンにも適用できることがあります。

例：

要件 [23462] 「Apache Commons FileUpload におけるサービス運用妨害 (DoS) の脆弱性」に対応します。

対応は、2016 Summer(Nirvana) に実施しているが、1年以上前のアップデートバージョンでも利用されているため2014 Winter(Iceberg) にも適用可能。

Version 7.x以前とAccelシリーズのバージョンアップ・アップデートの違い

- 次の考え方に違いがあります。
弊社では今後、Accelシリーズにおけるアップデートの運用を継続致します。

	Version 7.x 以前	Accelシリーズ
構築方法	製品個々のインストーラによるバージョンアップ	IM-Jugglingによるモジュール毎のアップデート
移行作業	バージョンアップ時の作業コストが発生	適切なカスタマイズであれば改修作業は未発生
対象範囲	製品内の全ての機能に対してバージョンアップが必要	必要なものをアップデート ※モジュールの依存関係により、一部例外があります。

脆弱性に関する情報公開ポリシー

- intra-mart Accel Platform や利用中のサードパーティに対して脆弱性が発見された場合のパッチおよびアップデートに対するポリシーは以下の通りです。

項目

- [パッチ・アップデートの公開](#)
- [サポートの回答範囲](#)

パッチ・アップデートの公開

- 製品や製品が利用しているOSSライブラリに脆弱性が発見された場合は、製品が利用している機能に以下のフローに従い公開を実施いたします。
 1. 脆弱性の情報入手
 2. 調査および対策の実施
 3. 情報公開
- 脆弱性の情報入手
 - 外部のセキュリティインシデントの情報を公開しているサイト（JPCERT/CC、JVN等）等から弊社が利用しているライブラリ等の情報を入手しています。
 - 製品開発工程において脆弱性に対する検査を実施することにより、未然に脆弱性に関わる問題を発見しています。
- 調査および対策の実施
 - 脆弱性の情報を入手した際は、影響調査を実施して、その対策について時期などを調整します。
- 情報公開
 - 発見された脆弱性に対する修正内容と影響範囲についての情報を「[intra-mart 要件情報公開サイト](#)」にて公開いたします。

製品のパッチ提供の範囲は「[リリースの範囲](#)」に従い、最新のアップデートより1年の間にリリースされたアップデートに対するモジュールのバージョンが対象です。これより以前のアップデートをご利用の場合はアップデートを行ってください。



コラム

「[intra-mart 要件情報公開サイト](#)」での公開は、2018 Spring(Skylark)以降の要件が対象です。

intra-mart Accel Platform のセキュリティ（脆弱性）対策については、「[intra-martで運用する場合のセキュリティの考え方](#)」を参照ください。

サポートの回答範囲

- サポートへのお問い合わせに関しては、公開されている情報の範囲でのみ回答いたします。

アップデート・パッチにおける動作保証範囲

- intra-mart Accel Platform や製品のアップデート・パッチを適用した後の動作保証範囲については以下の通りです。

項目

- [動作保証範囲内](#)
- [動作保証範囲外](#)

動作保証範囲内

- 製品標準の機能
 - 例
 - APIのインタフェース、動作
 - タグライブラリの実行結果
 - 各種サービスの振る舞い（ServerManager、TaskService、JobSchedulerService）
- 製品標準の画面
 - 例
 - システム管理者画面
 - テナント管理者画面
 - IM-FormaDesigner for Accel Platform で作成したアプリケーション（ただし、ユーザが独自でプログラミングできる箇所を除く）

動作保証範囲外

- ユーザがカスタマイズした箇所
- 製品の拡張ポイントを利用して拡張要素を独自でプログラミングした箇所
- 製品で利用しているOSSライブラリの依存先ライブラリでの仕様変更箇所
 - 例
 - Terasoluna Server Framework for Java (5.x)がバージョンアップしたことでMyBatisがバージョンアップがあり、このMyBatisがバージョンアップしたことで依存しているOGNLの仕様変更がおこった場合等
- intra-mart Accel Platformを動作させるのに必要なOSSライブラリを直接利用したプログラム